

家庭菜園促進のためのアプリ考察

コロナ禍で家族で完結する趣味として家庭菜園を始める人が多くいた。一方で育て方が分からない、土地がなく始められないという人もいた。

その中で誰でも気軽に家庭菜園やガーデニングを行える環境があれば、心身ともに豊かな生活が行えるようになるのではないか。

コロナ禍で始めた新たな趣味は？（B&G財団）

https://www.bgf.or.jp/enq/covid-19/2020_enq_covid-19.html（最終アクセス日：2022/06/06）

順位	趣味	得票率
1	懸賞応募	12.9%
2	運動・トレーニング	8.5%
3	ガーデニング・家庭菜園	8.4%
4	手芸・ハンドクラフト	7.1%
5	料理	6.5%

提案者 所属：横浜市立大学データサイエンス研究科データサイエンス専攻
氏名：菅野 浩

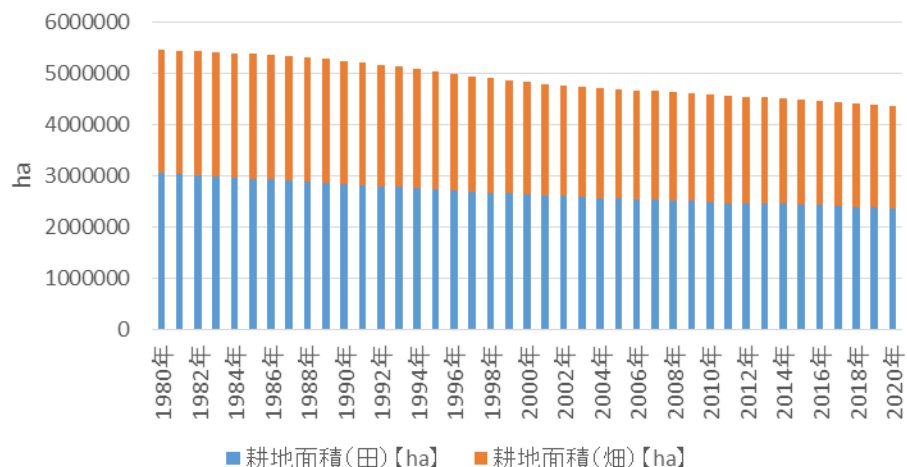
背景

耕地面積、都市公園都、市緑地面積(e-Stat)

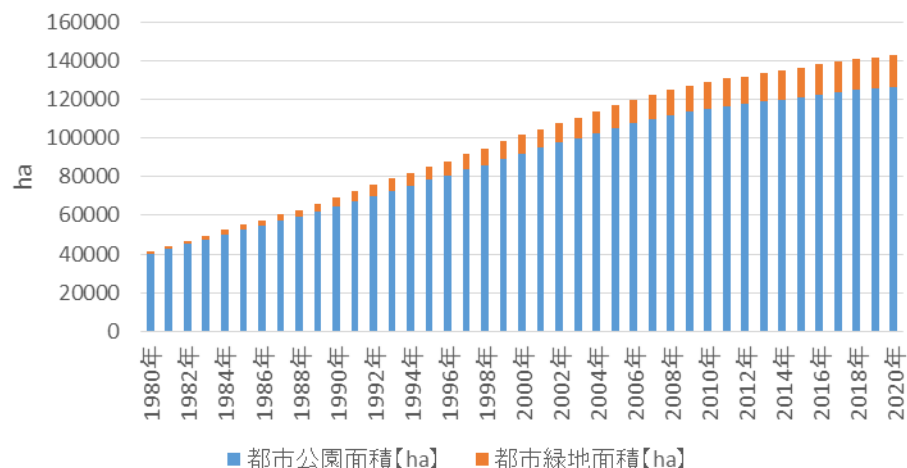
<https://www.e-stat.go.jp/> (最終アクセス日: 2022/06/06)



耕地面積の推移



都市公園、都市緑地面積の推移



・SDGsへの取り組み

SDGsの目標11-7では「住み続けられるまちづくりを」を目標としており、都市公園や都市緑地面積の推移が着実に伸びている。

一方で耕作面積については都市緑地面積と比較して桁違いに減少しており、今後耕作地が減少することで、食料自給率の低下や食育の停滞などが起こることで、食の面において住み続けられるまちづくりが難しくなる可能性も。

・生産緑地の2022年問題

日本経済新聞には『都市部にある農地「生産緑地」の多くは3年後、税優遇の期限を迎える。所有者は田畑を残すか、宅地などに転換するかを選択を迫られている。首都圏で大量の農地が宅地転用されれば、乱開発を招く恐れもあり「2022年問題」とも呼ばれている。』とあり、農地が宅地に転用される可能性があり、さらに耕地面積の減少が進むこともありうる。

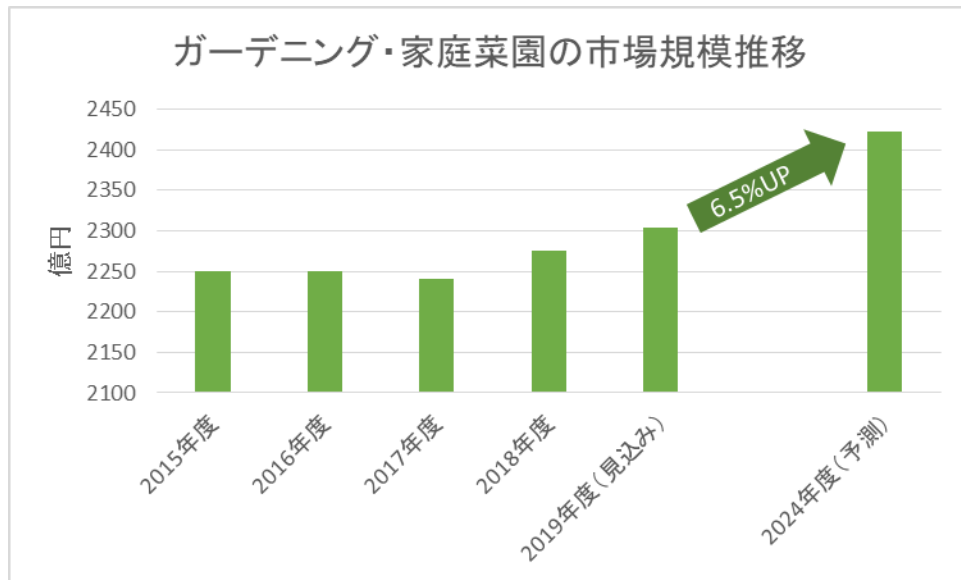
日本経済新聞2019年11月1日『変わる首都圏農業(下)生産緑地 迫る「2022年問題」 保全か転用か分岐点』

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ051430030V21C19A0L92000/> (最終アクセス日: 2022/06/06)

背景

ガーデニング・家庭菜園市場に関する調査(2019年)(株式会社矢野経済研究所)

https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/2308(最終アクセス日:2022/06/06)



株式会社矢野経済研究所によるとガーデニング・家庭菜園の市場は2019年度から2024年度にかけて6.5%の成長が見込まれる。

その要因として資材メーカーや小売店、苗の生産者によるSNSを利用した情報発信やカフェとの併設、子ども連れを想定した遊具を備えた滞在型売り場づくり等で活性化させているため。
また、収穫をしやすくしたり、手入れを楽にする苗の商品化が進むことも市場規模拡大の要因。

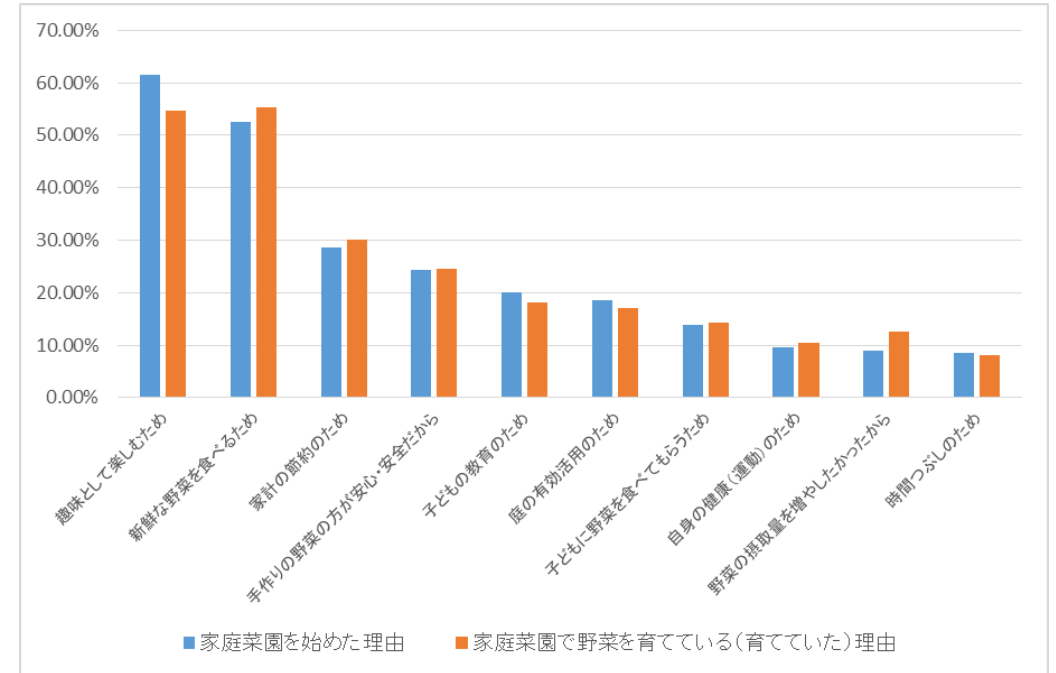
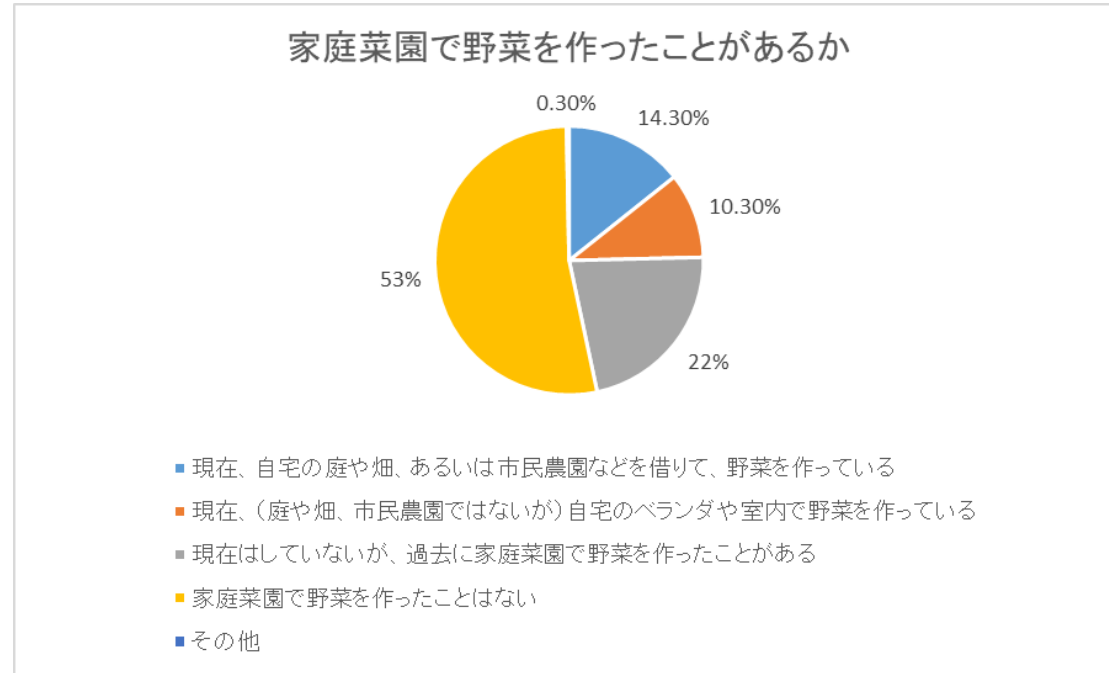
→耕作地が減少しているにもかかわらず、家庭菜園・ガーデニングの需要が高まっている。
そのため、今後耕作地不足の可能性も。

耕作地不足の解消のためには既存の使われていない土地をうまく活用するとよいのでは。

家庭菜園の経験と始めた理由

2021年度 野菜と家庭菜園に関する調査(タキイ種苗)

https://kyodonewswire.jp/prwfile/release/M103953/202108178886/_prw_OR1fl_2P7bduXI.pdf (最終アクセス日: 2022/06/06)



家庭菜園で野菜を作ったことがない人は約半数
途中でやめた人は2割ほどいる

始めた人の多くは趣味や新鮮な野菜を求めている
人が大半
子どもの教育や節約、手作りの信頼性の高さを求
める人も一定数いる

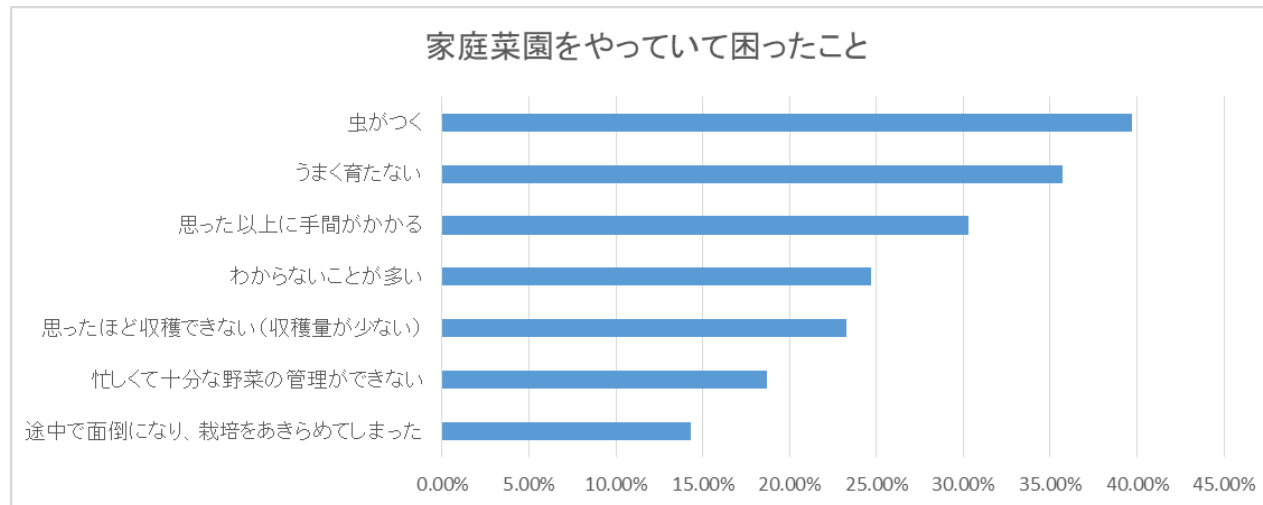
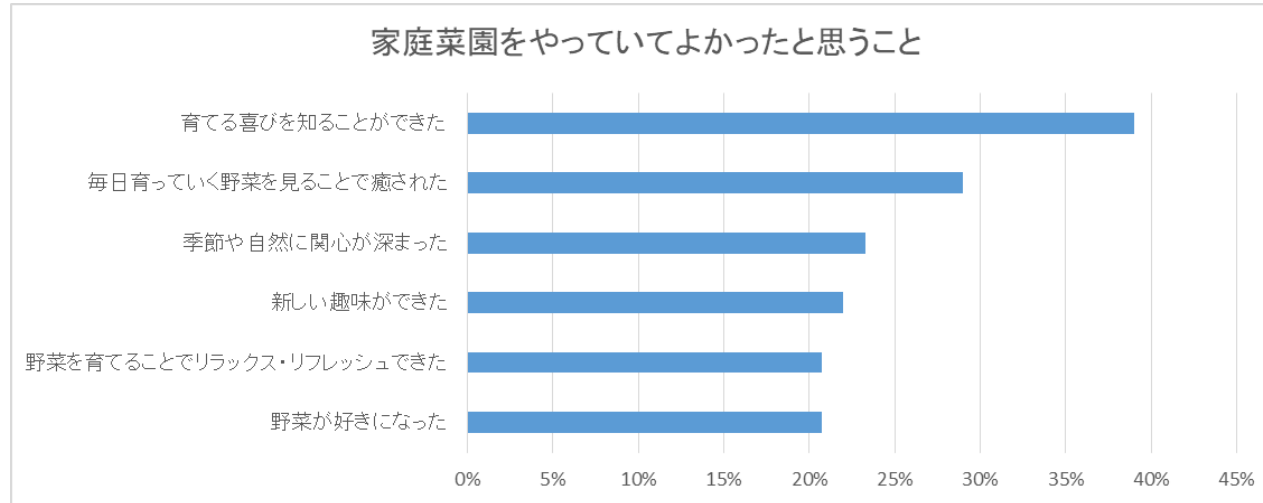
・考察

家庭菜園を行っている人の多くは子育てを行うファミリーや老後の余暇を使用している退職者、節約を意識している、健康に気にかけている主婦層が考えられる

家庭菜園をやってよかったこと、困ったこと

春の家庭菜園に関する調査(JA)

<https://www.jacom.or.jp/shizai/news/2022/03/220314-57485.php> (最終アクセス日: 2022/06/06)



家庭菜園でよかった経験として一番多いのが育てる喜びを知ることができたこと
他にも自然への関心やリフレッシュ、趣味の充実など心身の健康につながる人が多い

困ったこととして育成の難しさを上げた人が多い
他には時間や手間がかかる等がある

・考察

趣味や自然と触れ合うことを目的として始める人も多いのでは
一方で育て方が分からず一定数の人は離脱してしまう現状もありそう

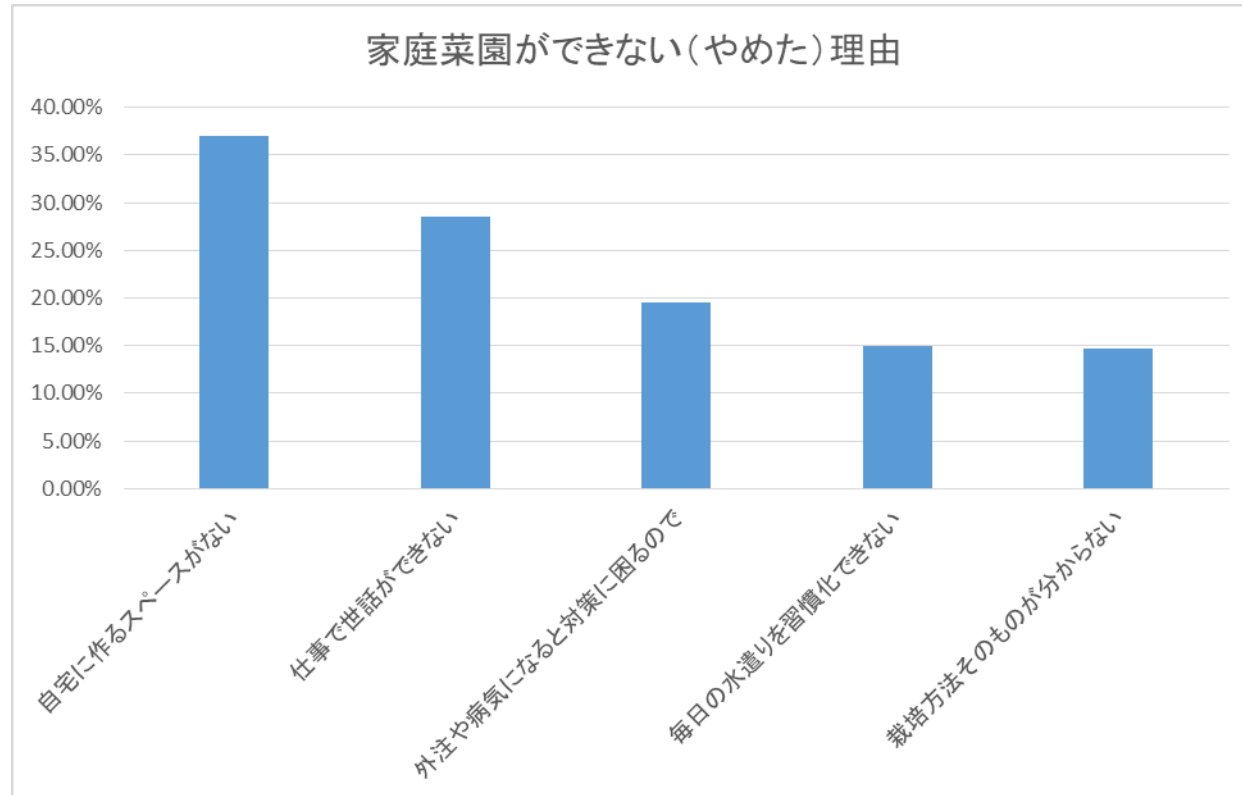
育て方のノウハウを知っている人と情報共有することで長期的に続けられるようになるのでは
デメリットよりもメリットの方が大きくなると続けられる？

家庭菜園をやらない、やめた理由

第324回家庭菜園をしていますか？（青山ハッピー研究所）

<https://www.asahigroup-holdings.com/company/research/hapiken/maian/bn/201003/00324/>

（最終アクセス日：2022/06/06）



家庭菜園ができない理由として一番に上がったものはスペースがないこと
他にも育て方に関する困りごとや時間の制約により離脱して今う場合がある

・考察

余っている土地やスペースを有効活用して、だれでも気軽に家庭菜園を行える環境づくりができれば始めるきっかけにもなるのでは

始めた後は農家などに栽培方法の相談ができる環境や忙しい時に代わりに育ててくれる人もいると続けられる？

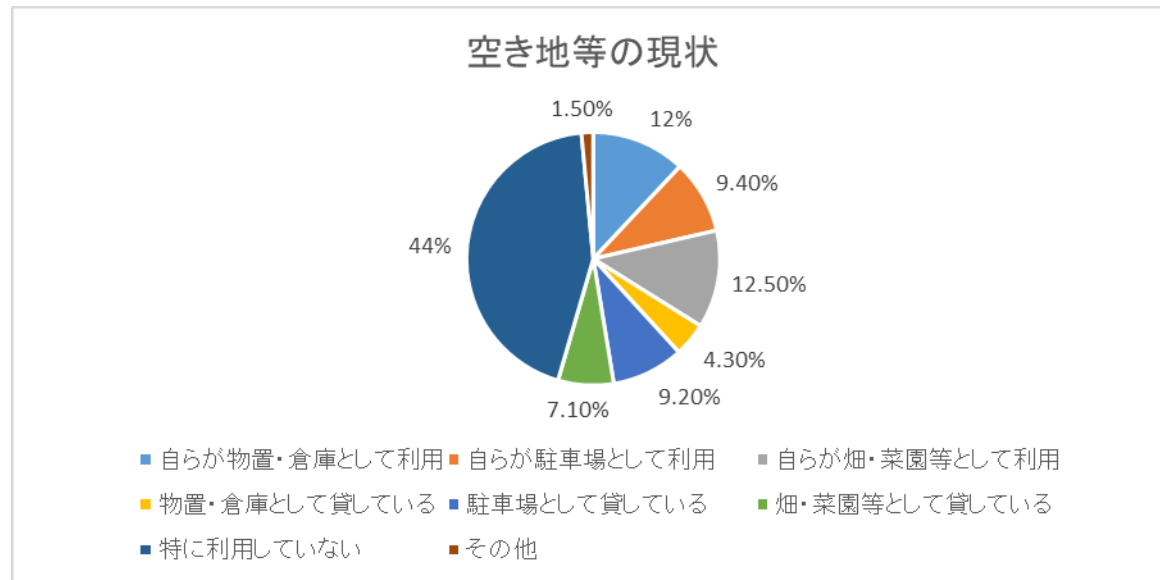
IoTなどを使って自動で栽培する手もあり

仕事をしながら栽培できる環境づくりが重要に（家庭菜園は退職後の人だけでなく、仕事しながらでも取り組められるようにする必要性）

空き地の現状

空き地等に関する所有者アンケート結果(国土交通省)

<https://www.mlit.go.jp/common/001205491.pdf> (最終アクセス日: 2022/06/06)

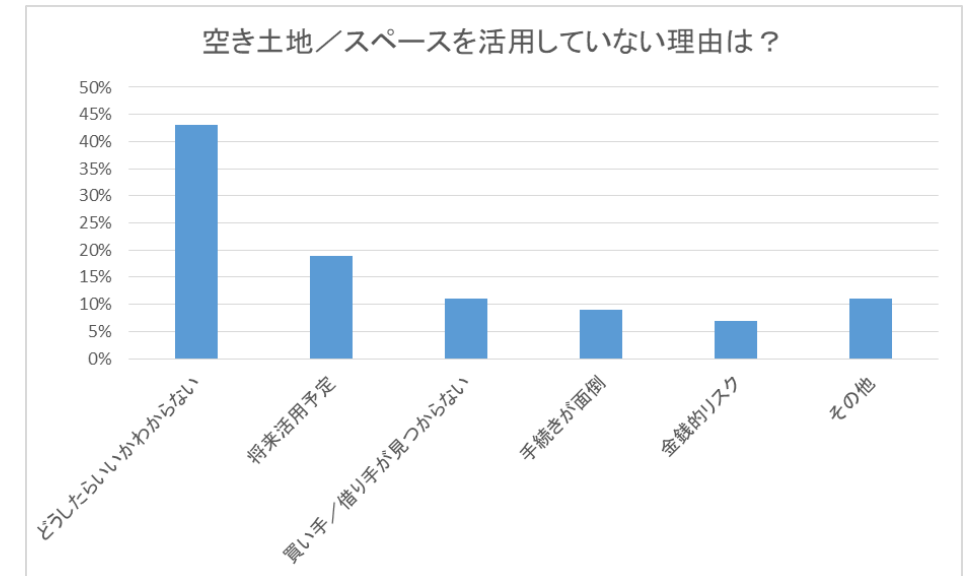


空き地に関する調査では約半分の人が利用していない状況

その理由としてどうしたらいいのかわからない人が大半となっており、放置された土地が実は多くあるのでは

【100人に聞いた！】所有する空き土地やスペースを活用しない理由と収益化への意識調査(株式会社橋本商会)

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000009.000069828.html> (最終アクセス日: 2022/06/06)



・考察

余ったスペースを家庭菜園に使えるようになると家庭菜園を始めたい人と土地を活用したい人のニーズを満たすのでは

その人たちをマッチングするプラットフォームがあると家庭菜園もより普及する可能性

ガーデニングに取り組む人・空地进行を所有する人

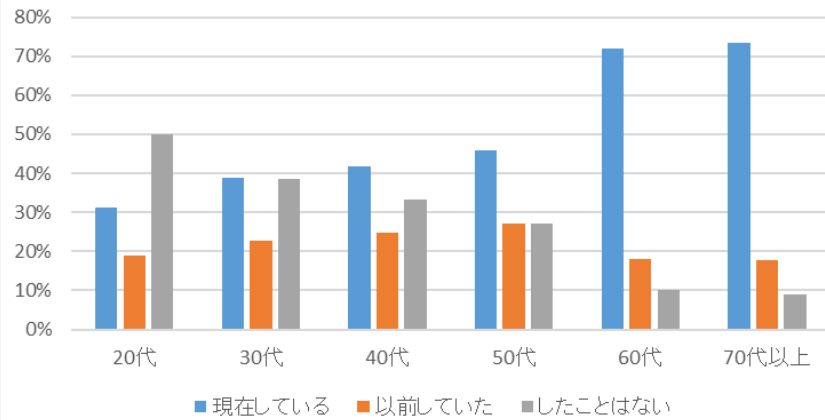
ガーデニングに関するアンケート(DIMSDRIVE)

<https://www.dims.ne.jp/timelyresearch/2017/170316/> (最終アクセス日: 2022/06/27)

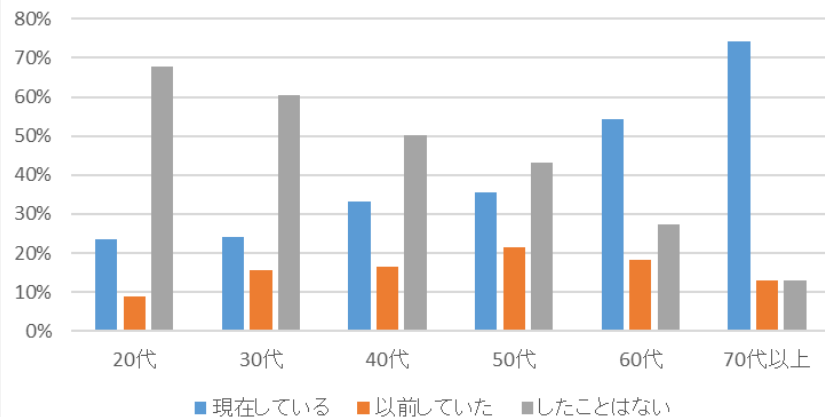
空き地等に関する所有者アンケート結果(国土交通省)

<https://www.mlit.go.jp/common/001205491.pdf> (最終アクセス日: 2022/06/06)

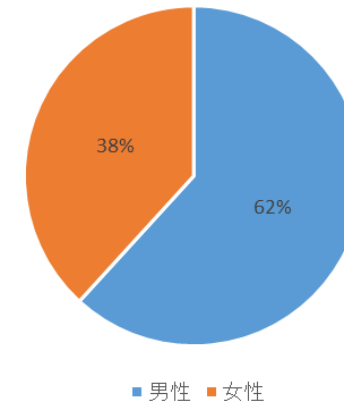
花や緑のある生活をしていますか(女性)



花や緑のある生活をしていますか(男性)



空き地を持つ男女比



年代別空き地所有割合

